

2020年 4月 30日

日本災害復興学会 2018年度研究会 活動実績報告書

<研究会名称>

東北復興研究会

代表者	佐藤翔輔, 東北大学災害科学国際研究所
企画分担者	坂口奈央, 日本学術振興会 (2019年度: 東北大学大学院文学研究科博士後期課程)
	古関良行, 河北新報社
	土方正志, 荒蝦夷
	山内宏泰氏, リアス・アーク美術館
	塚本卓, 気仙沼まちづくり支援センター
	福田雄, ノートルダム清心女子大学 (2019年度: 東北大学東北アジア研究センター)
	定池祐季, 東北大学災害科学国際研究所
	福留邦洋, 岩手大学
	高木大毅, 河北新報社
	石垣のりこ, 元エフエム仙台
	石塚直樹, みやぎ連携復興センター
	阿部晃成 (2019年度: 東北大学高度教養教育・学生支援機構)

<添付資料>

- ・活動に関する資料 (パンフレット等) がございましたら、添付のうえご提出願います。

1. 本助成により実施した研究活動の全体概要

本助成により実施した研究活動のアウトラインを記入してください。なお、各項目における記入方法は、上段には概要を箇条書きで2行程度にまとめていただき、下段には、その内容を記入してください。

<p>【課題、目的】 この研究活動を行った動機や目的を記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題：東日本大震災の発生から時間経過していく中でのテーマ・問題の細分化 ・目的：様々な発信媒体を活用して、今の復興現場の現状と課題を全国への発信
<p>課題：東日本大震災の発生から時間経過していく中でのテーマ・問題の細分化</p> <p>東日本大震災による影響は、広域的に様々なセクターに及んでいることから、被災地で発生している問題や、新たな知見、またそもそも震災復興に関する関心領域（テーマ）が、多岐にわたっている。そのバラエティは、震災発生から9年、10年と経過する中で顕著であり、その細分化が進行している。具体的には、現場から見過ごされている支援（例；震災遺児）、壮年層が収入制限によって災害公営住宅に入居できない事態、東北復興に投じられた予算の行方と効果、震災に関連する犯罪やホームレスの変容、震災遺構の経過など、ここに挙げる具体例だけでも多岐にわたる。</p> <p>目的：様々な発信媒体を活用して、今の復興現場の現状と課題を全国への発信</p> <p>発足から3年目を迎えた令和元年度は、「あえて」「発信」に力を入れることを念頭に、様々な発信媒体を活用して、今の復興現場の現状と課題を全国に発信することを目的とした。東日本大震災は、広域かつ甚大な被害におよび、震災から8年が経過した現在、ようやく住民の大半の住宅再建にめどがたちつつある一方で、人口減少や高齢化などの社会問題は深刻化を増している。そのような中で、東日本大震災の復興は、様々な側面から議論が行われているが、あれほどの大規模な災害について、わずかなメンバーかつ限られた専門性で、総括・検証することは困難である。復興過程の現状を総括・検証すること恐れ多く、それよりも、研究会メンバー各人が有するネットワークや現場力を活かして、現場の課題や成功事例を拾い上げ、それを全国に広く共有することに注力することとした。</p>



<p>【実施方法、内容】 この研究活動の実施方法、内容を記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙面特集での発信 ・(当初予定、一部縮小して実施) 一般誌での発信 ・(当初予定、中止) ラジオ番組での発信・情報収集
<p>・新聞紙面特集での発信</p> <p>研究会メンバー内に、河北新報社員が所属していることから、研究会の活動の状況や議論内容について同紙特集面にて発信する。河北新報はブロック紙であるものの、東日本大震災に関心のある層が購読している傾向にあることから、実施可能性の面からもこの方法をとることとした。</p> <p>・(当初予定、一部縮小して実施) 一般誌での発信</p> <p>研究会メンバー内に、「震災学」を刊行している荒蝦夷関係者が所属していることから、研究会の活動の状況や議論内容について同紙特集面にて発信する。同誌は、広く震災関連の論考を掲載する一般向けの刊行物である。書店がもちろんのこと、インターネット上でも流通していることから、実現可能性の面からもこの方法をとることとした。後述するように、一部縮小して実施した。</p> <p>・(当初予定、中止) ラジオ番組での発信・情報収集</p> <p>研究会メンバー内に、ラジオ局関係者が所属していることから、研究会の活動の状況や議論内容について発信するとともに、リスナー（被災者）参加型で、現場の生の声を収集する媒体として実施することとした。後述するように、同方法は中止となった。</p>



【活動成果】 この研究活動で得られた成果を記入してください。

- ・新聞紙面特集での発信
- ・(一部縮小して実施) 一般誌での発信
- ・(中止) ラジオ番組での発信・情報収集

・新聞紙面特集での発信

「2019年8月11日、河北新報、いのちと地域を守る [考える] 多様な視点 課題発信 東北復興研究会 活動3年目 出版、芸術関係者もメンバー 祭り創造などテーマ」として掲載した。

いのちと地域を守る



多様な視点 課題発信

東北復興研究会 活動3年目

「考える」

出版・芸術関係者もメンバー

祭り創造などテーマ

中道 雄一 比較

東北復興研究会は、震災発生から10年を迎えるにあたり、活動3年目を迎える。この機会に、研究会の活動の軌跡を振り返るとともに、今後の活動の方向性を考える。研究会の活動は、震災発生から10年を迎えるにあたり、活動3年目を迎える。この機会に、研究会の活動の軌跡を振り返るとともに、今後の活動の方向性を考える。研究会の活動は、震災発生から10年を迎えるにあたり、活動3年目を迎える。この機会に、研究会の活動の軌跡を振り返るとともに、今後の活動の方向性を考える。

- ・(一部縮小して実施) 一般誌での発信

「坂口奈央, 佐藤翔輔: 検証・震災遺構のあり方を巡る合意形成過程, 震災学, Vol. 14, pp. 150-159, 東北学院大学/荒蝦夷, 2020. 3.」として, 研究会テーマの一部を成果として掲載した。



それ以外のテーマ等については, 2019年台風19号の影響で, 十分に検討することができず, とりまとめが実施できなかった。

- ・(中止) ラジオ番組での発信・情報収集

担当の研究会メンバーが所属を離れたことと, 2019年台風19号の影響もあり, 番組そのものを実施することができなかった。

2. 本助成により実施された研究活動に関して補足説明することがあれば記入してください。

(例: 実施した研究活動の社会的意義、独自性及び改善点、今後の活動予定等)

2019年度は台風19号が宮城県において甚大な被害が発生したことから, 研究会のメンバーの多くがその対応, 研究活動に注力することになり, 当初計画通りの活動を実施することができなかった。また, 2019~2020年度になり, 東北を離れるメンバーも出たために, 今後の同様な形態での活動を維持しないこととした。